

問題 16. 濾胞性リンパ腫 Grade1/2

症例：75歳、女性。後腹膜腫瘍。

検体（採取法）：EUSガイド下生検（捺印）

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。（VS：バーチャルスライド）

1. VSでは、濾胞様構造がみられる。○
2. VSでは、多数のアポトーシスがみられる。×
3. 主としてリンパ節外臓器に発生する。×
4. 進行した臨床病期の症例が多い。○

解説

弱拡大では濾胞様の構造が認められる（図1）。強拡大にすると中型類円形ないし核のくびれた胚中心細胞に加え、少数ながら大型の核、核膜に接した小さな数個の核小体を持つ胚中心芽球が混在をしている（図2 ←）。

なお、赤い矢印で示される二核の細胞は濾胞樹状細胞と思われる。核分裂像やアポトーシスが点から濾胞性リンパ腫を推定する。リンパ節に主として発生するが、節外にも発生し、消化管（特に十二指腸）、皮膚、甲状腺、唾液腺、乳腺、精巣などは好発部位である。診断時には病期が進行していることが多く、Ann Arbor stage III, IV期が2/3程度を占める。

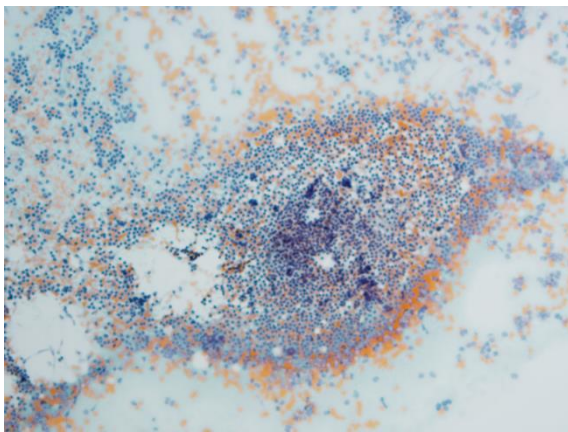


図 1

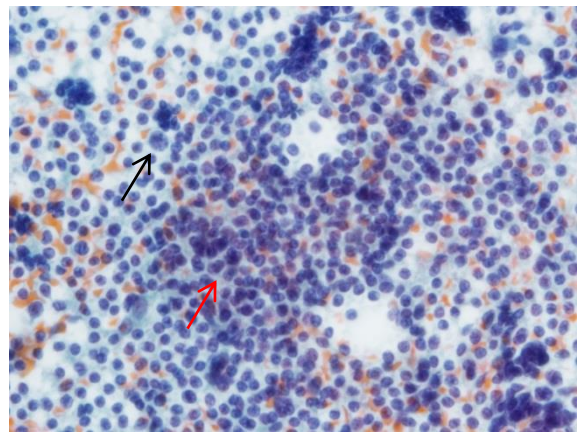


図 2